

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891400073
法人名	株 だんだん
事業所名	グループホーム つるかめ
所在地	西予市野村町野村2-109-1
自己評価作成日	平成27年11月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者職員が共に作っていく、安心して過ごせる日常生活を送れるよう、地域に寄り添い支援をしていく。地域の四季折々の行事や子供達との楽しい日を過ごさせていただき充実した日々を過ごせることに感謝します。
 利用者も共に役割を持ち残存能力を生かしながら達成感や幸福感のある個別に生活の支援を行えるよう職員も自分の能力や技術力を積み笑顔を絶やさぬ地域に寄り添える介護者を目指したい、利用者の毎日を精一杯生きている姿を見ながら介護者としての成長が見られる仕事をしたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人では、併設するデイサービスの休日に利用し、「オレンジ倶楽部」を開き、地域の方や家族が訪れてお茶を飲みながら過ごせる場所を提供している。
 自治会の常会時には、事業所の理解や協力を得られるよう、取り組みや避難訓練の状況等についても報告している。
 乙亥相撲は、地元の方達にとって年の暮れの行事として馴染んでおり、入居後も出かけられるよう支援している。利用者は、屋台でおやつを買ったり相撲を見物したりした。行けなかった利用者もテレビの生中継を観て楽しんだ。
 職員の意見や利用者の日常の言動、ご家族の思いをもとに介護計画を作成しており、毎月の職員会時に話し合っモニタリングを行っている。計画作成担当者は、「今の状態に少し頑張れるようなプラン」頑張ってみようと思うプラン」の作成に取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム つるかめ

(ユニット名) つる

記入者(管理者)

氏名 古田 康子

評価完了日 2015 年11月20日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念に基づき家庭的な環境のもとで利用者が役割を持ち利用者が自ら選択でき安心して日常生活を送れるよう支援します。 (外部評価) 「選択する自由と安心できる生活を送れる」という理念をつくり、毎月目標を立てて実践につなげている。12月は「外に出て冬を感じる」と目標を立てていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 観月会、お花見、祭り、亥の子など地域の方と交流と部落の行事に参加するなど多くの地域資源を活用し、地域の方と顔見知りになり相互に支援を頂いています。 (外部評価) 自治会の常会に参加して、事業所を知ってもらえるように取り組んでいる。法人では、併設するデイサービスの休日に利用し、「オレンジ倶楽部」を開き、地域の方や家族が訪れてお茶を飲みながら過ごせる場所を提供している。近所の方から野菜のおすそ分け等もあり、又、立ち寄ってくれて、庭のベンチで利用者とおしゃべり等するようなこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 日頃より利用者の出来る事をして頂き灯笼などの作品を作り庭に点灯してみたり「蛸まつり」に参加、清掃活動で草刈りなど参加し災害時の相互理解もあります。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			介護の報告や依頼でイベント、畑の作業、など実施した行事の報告や災害時の避難救出の依頼相談など、又、行事に参加して頂き意見を伺っています。	
			(外部評価)	
			会議には、利用者、ご家族、民生委員、地区の役員等の参加があり、事業所からは、利用者・活動について状況報告を行っている。年に1回は、利用者、ご家族、地域の方が交流できるような会議を設けている。	今後もさらに、会議にいろいろな立場の方に参加してもらえよう呼びかけ、事業所サービスについての意見や希望を聞いてほしい。会議を活かして地域とのつながりをより深めてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			介護相談、運営推進会議、その他の研修会などに参加し意見や他事業所の活動なども聞かせて頂き地域に寄り添って行けたらと思っています。	
			(外部評価)	
			野村町社協主催の「元気な高齢者を活かせる祭典」時には、高齢者のファッションショーや介護施設利用者の作品展示があり、事業所からも利用者がつくった灯籠を出展し参加した。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			研修会などで学び拘束しない介助に心掛け、地域参加が出来るよう門扉等を無くして利用者の意思が意欲的に動けるよう安全目的以外の設備や設置はしないよう心掛けている。	
			(外部評価)	
			ひとりで外に出かける利用者には、止めるのではなく状況を見極めながら、さりげなく同行して支援している。ベッドからの立ち上がりに不安のある利用者には、滑り止めマットとセンサーを設置して転倒防止に気を付けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 暴言などがある時は利用者の間にはいり納得できるよう話を十分に聞いて落ち着いてもらうよう介助、職員間でも虐待などないように毎日の申し送りなどの機会に話あう。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部の研修会に参加し、施設内においても施設内研修で自立支援の意味を学ぶ。利用者個人の思い傾聴する姿勢で対応する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 毎月、各ユニットで話し合いがある。利用者の様子、変化などを検討し利用者の入所時などの口頭や文章による報告がある。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月、各ユニットで話し合いがある。利用者の様子、変化などを検討し利用者の入所時の詳細な文章による報告もある。面会時などには利用者の本当の姿も見れ介護に活用する。 (外部評価) 月1回、写真や体調、様子等を書いた利用者個別の通信をご家族に送付している。年1回、家族会を行っており、一緒に食事等しながら要望や意見を聞いている。ご家族からは、「なるべく状態変化の少ないように、転倒をしないようにしてほしい」との要望が多いようだ。遠方のご家族とは、電子メールで情報をやり取りするケースもある。	ご家族とともに利用者を支えていけるよう、ご家族と一緒に支援したり、活動するような機会を工夫してはどうだろうか。「利用者が安心できる生活」の実践に向けても、ご家族との協働に取り組んでほしい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			申し送り、毎月のカンファレンスなどで意見を出しあっている。管理者による外部の意見や利用者の報告があり提案も出来る	
			(外部評価)	
			毎月の職員会時には、職員が順番でテーマに沿って発表し、みなで勉強している。たとえば、歩行困難になった利用者については、福祉用具や入浴の仕方等、利用者にとって一番良い支援は何か、職員で話し合いながら取り組みをすすめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			仕事に対しての要望、休みの希望などを合わせてもらう。年1回の面談などでも希望などを発言出来る。	
			(外部評価)	
			外部評価研修会の参加、職員の個人の能力アップの自主研修の発表など自己能力の獲得を目指している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			外部評価研修会の参加、職員の個人の能力アップの自主研修の発表など自己能力の獲得を目指している。	
			(外部評価)	
			地域にある他のグループホームとも交流がある。公的な研修や学習には参加しながら地域の役割やネットワークの活用方等を学び実践している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			外部評価研修会の参加、職員の個人の能力アップの自主研修の発表など自己能力の獲得を目指している。	
			(外部評価)	
			地域にある他のグループホームとも交流がある。公的な研修や学習には参加しながら地域の役割やネットワークの活用方等を学び実践している。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			困っている事、不安なことなど利用者様の様子を見る。入所前の情報や家族の要望等をできるだけ多く聞き入所後の生活を自然に受け入れでき安心して生活するよう支援する。	
			(外部評価)	
			困っている事、不安なことなど利用者様の様子を見る。入所前の情報や家族の要望等をできるだけ多く聞き入所後の生活を自然に受け入れでき安心して生活するよう支援する。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会に来られた時には近況報告したり、月1回の通信などで個人的な状況も伝え、家族より利用者の心身の変化などにより良い提案を頂く。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し送り、職員会、カンファレンスなどで意見の共有をしながらより個人的な向上を目指す。利用者の新しい生活の発見などには取り組み方も変え対応が出来る。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個人的に出来る事、出来そうな作業などで達成感の味わえるよう支援している	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会に見えた時など近況報告をして生活歴の中での出来事を継続出来るよう対応している。家族の励ましは何よりも安心されるようです。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の方、家族の方か親戚の方との面会時には若い時の生活や趣味等で活躍された情報を聞き出し、介助時の話題に取り込み施設生活に活用してゆく。 (外部評価) 乙亥相撲は、地元の方達にとって年の暮れの行事として馴染んでおり、入居後も出かけられるよう支援している。利用者は、屋台でおやつを買ったり相撲を見物したりした。行けなかった利用者もテレビの生中継を観て楽しんだ。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			ホールや屋外、ロビーでゲームや、リハビリ、教養などに誘い参加し体や気分よく笑えるようセッティングしている。塗り絵、ドリル等のリハビリもして頂く。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			挨拶や声掛けなどで現状の状況をお聞きすると安心される時もあり、入所時と変わらない態度で対応するよう心がけている。	
で				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			各個人の暮らしに問題があれば職員間で検討会を持ち解決できるよう支援方法を検討する。利用者が本人本意の生活できる事をベースにする。	
			(外部評価)	
			月1回の職員会時には、それぞれが担当する利用者の状況、状態を報告して職員全員で話し合っている。職員は、日常会話の中のさりげないフレーズや顔色、表情からも思いを汲み取るように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			職員間で情報交換、家族などからの情報や要望が実現できるよう毎月の報告書や面会時の活用法も詳しく聞けています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			1ヶ月の計画を決めたり長期の目標もあり職員間で話し合いながら実現出来るようにしている。身体的な不自由はあっても精一杯生きてる姿が見られます。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月の職員会では利用者の課題や現状の変化等の意見を出しあい本人の意向に添う支援、改善点など実行する。面会時は家族を交えてお話を聞く時もあります。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員の意見や利用者の日常の言動、ご家族の思いをもとに介護計画を作成しており、毎月の職員会時に話し合ってモニタリングを行っている。計画作成担当者は、「今の状態に少し頑張れるようなプラン」「頑張ってみようと思うプラン」の作成に取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>食事の分量、服薬、日中の様子や夜間の様子を記録し、職員全員で共有している。排泄、健康管理、目標の達成などでイキイキとした姿の実現を目指している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>「こうして欲しい」と言う希望には耳を傾けていき、ご家族、利用者の声を大切にしたい。実現可能か改善すべきなどその時、その場での変更も検討</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>「此処にいて幸せ」と思って頂く生活を提供できるよう周囲の環境資源を活用しながら中学生、小学生や部落の方の交流をつ続けていきたい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 毎月1回の担当医による往診の実施、健康管理、服薬などの支援を頂き正しく介助しています。周囲の病院にも症状に合わせて往診など頂く。	
			(外部評価) 月1回協力医の往診があり、相談、対応してもらっている。これまでのかかりつけ医への受診を希望する場合は、職員が付き添ったり、送迎等して支援している。気になる症状がある時には、早めにご家族に相談して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 「いつもと違う」事の気づきを職員間で申し送り、状況により管理者、看護師に伝える事で本人の負担も軽くなるようにしている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入退院時においては管理者、看護師が主となって病院等の対応をし改善に向けての対応や介助方法を正確に指示、伝達し共有している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 管理者、看護師、担当職員、家族などで十分に話し合い、その対応方針を共有し進めている。毎日のカンファレンス、プラン変更や実施に向けて医者、家族との連携に努め納得のいく介護に取り組んでいます。	
			(外部評価) 入居時には、利用者が重度化した場合のあり方について希望を聞くようにしている。現在は、ほとんどのご家族が「最期は病院で」と希望しており、重度化した場合には再度希望を確認している。今年、初めての看取りを支援した事例がある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			管理者、看護師等に連絡し緊急連絡網による通報や関係機関との連携、対応を的確に対応できるよう心がけている。職員会での実践や実技の体験で実力をつけている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			月1回の避難訓練、又は消防署の指導により救急救命の実技や消火機の使い方を学び方が一に備えたり、職員の意識向上につなげ地域の協力体制もあります。	
			(外部評価)	
			夜間の火災を想定した訓練時には、避難に要する時間を計ったり、歩行困難者の救出実技として職員が利用者役になり、毛布に包まれ引っ張る訓練を行った。職員からは「包まれると不安になる」との意見があった。地域の協力を得られるよう、自治会の常会時には事業所での避難訓練の状況を報告している。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			利用者に対して敬語で対応する意味を理解し実践している。又その人の人格に寄り添い成長していく事を目視しています。心地よい施設の生活を提供したい。	
			(外部評価)	
			ポータブルトイレを置いている居室や居間に近い居室の入口にはのれんを掛け、中がまる見えにならないよう配慮をしている。職員は、利用者が落ち着かないような状態の時には、否定する言葉は使わず、他の事に気が逸れるよう対応している。移動パン屋が来ており、利用者のご自分の好きなパンを選んでおやつにしたり、朝食にする方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			利用者自身から自らの選択で行動される方は尊重し、自己選択の困難な方は「ハイ、イエ、」で返事ができるよう声掛けしています。日頃より声掛けし自分の力で自己選択できるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			つつい職員側の都合で動きがちでしたが利用者の心身の状況を踏まえて自己決定できる環境を提供するよう心がけています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	
			本格的なお洒落支援はしていないが、モーニングケアでは髪をといてキレイになると自然に笑みが出ます。朝の支援で安心して生活できる支援につながればと思います。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			タマゴ料理、ちらし寿司、混ぜ飯の好きな方と、一人一人の好みを知り食事時間を一緒に楽しむよう心がけている。利用者の機能や病気、不足な栄養素等を知り介護技術の向上をつなげる。	
			(外部評価)	
			行事や誕生日会の日には、両ユニット合同で食事を楽しめるように支援している。献立は、ユニット毎にその日調理する職員が立てており、週3回は魚の日と決めて、近所の魚屋から旬の魚を届けてもらっている。調査訪問時は、野菜の下ごしらえや下膳等をしている利用者の様子がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	
			水分摂取は大切ですが、利用者には水分を摂れない方や苦手な方がいて摂取方を定例会等で意見交換しています。手作り野菜や周囲からの頂き物も調理に使っています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	
			毎日の口腔ケアの大切さを理解し利用者が受け入れて生活で安全な口腔衛生が出来るよう、各利用者に合った支援をしていく。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄確認表を利用し、事前に誘導支援を心がけている。便意が無くても1日に1回はトイレの便座に座るよう支援し排泄能力を意識出来るよう支援し気持ち良く排泄出来るよう支援し自尊心を傷つけないよう気を付けます。</p> <p>(外部評価) 目の不自由な利用者の方の居室にはポータブルトイレを置き、職員が見守り等して支援している。車椅子の利用者には、トイレ使用中は職員は外で待ち、物音等したら声をかける等して介助している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) オリゴ糖やヨーグルトを毎日取り緩下剤や食物摂取量などと毎日の体調にあわせ生活習慣とも状況判断しながら個人的に取り組んでいる。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 個人的に好き嫌いがありますが衛生面や体調、外出などをみながら利用者の心身の安定のために進める。個人的な希望者は概ねいつでも入浴が可能です。</p> <p>(外部評価) 浴室にリフトを設置しており、各ユニットで時間や順番を調整して支援している。つるユニットは、利用者それぞれに入浴曜日を決めて支援している。かめユニットは、利用者の希望を聞きながら週2回入浴できるよう支援している。浴槽への出入りが不安な方には、利用者、職員両方に腰ベルトを装着して、ベルトを握って安心して入浴できるよう取り組んでいる。最近、浴槽内に手すりを設置した。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 個人の様子等を観察しながらその時の体調にあわせて希望を聞きながら休息して頂く。多くの病気を抱えている方は夜間睡眠を大切にしている。環境的に困難もあり(夜間不眠者など)服薬の対応もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全ての利用者さんを身心を理解するように努め、担当利用者さんにはすべての事に理解や対応出来るようにしている。病気や症状経過、服薬に付き学習してる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者が自らの選択や一部支援にて趣味、健康状況で個別的ではあるが自分でつくっていく生活を支援、市内に出掛ける事も気分転換になってるようです。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩、日光浴などをしている。地域のイベントには出来るだけ参加し楽しんで頂く。屋外散歩や屋外学習は気分転換になります。家族が見えたら家族と共に行動をして頂くと喜びは各別で、家族の絆の強さには感謝ですが地域に寄り添って行きたい。	
			(外部評価) 敷地内のお地藏さまや近所の神社へお参りができるよう出かけている。庭に出てプランターに花を植えたり、隣接する畑で職員と一緒に野菜作りをしている。	新たに、車いすを複数乗せられる車を購入し、外出がしやすくなったようだ。利用者で行ってみたいところや懐かしい場所等について話し合いながら、出かけてみるような取り組みを工夫してはどうだろうか。支援を通じて利用者の自信や意欲向上につなげてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望者には自分でお金をもって頂き買い物にはオヤツ等を買われます。4自分で選択されるのでアドバイスの声掛けはします。オヤツの購入後は腐敗等の声掛けもします。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時には電話ではなして頂き、家族さんからの電話は個室で会話するよう気にかけて家族に安心して頂くよう支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			季節の変化に合わせた壁画や写真、作品の掲示、利用者さんと一緒に作り貼り付けて鑑賞する。秋には灯籠を作成し地域な方にも見て頂く。	
			(外部評価)	
			玄関やベランダは屋根付きで、オープンスペースになっており、利用者が植えたパンジーのプランターを配していた。玄関や廊下には、畳や木のベンチを配置しており、利用者はそれぞれの場所でおしゃべりをしたり、外を眺めながら過ごしている。玄関には、先日の乙亥相撲のスナップ写真や七夕の折の利用者の浴衣姿の写真が飾ってあった。又、利用者作の灯籠を飾っていた。調査訪問時には、ご家族が利用者のひ孫さんを連れて来られて居間で談笑していた。又、他の利用者も子どもをあやしたり、笑顔で見守っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			ソファや椅子に座り窓辺の様子を眺める事もある。リハビリ体操も全員で参加。ゲーム共同作業と日常の生活の拠点になっている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			居室において家族と相談し以前の生活を取り入れたり、本人の選択でソファやBOXを設置し入所前の居住に似たせ想い出も深く安心して生活できるようにしている。	
			(外部評価)	
			利用者の視線から外が見渡せるよう、窓が低めに設置されている。ベッド、タンスは備え付けになっており、テレビや椅子を持参している方があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			車椅子や歩行器を使用の利用者が多いが楽しく安全であるよう介助している。職員研修やカンファレンスで個別の情報を共有しながら落ち着いて役割を持ち安心出来るよう支援したい。	